

天上の楽園の動植物

大雪山の中部には、高根ヶ原、五色ヶ原、沼ノ原、黄金ヶ原など、標高1,400～1,800mほどの高度に広がる広大な台地状の地形がある。お花畠に彩られ、あるいは湿原の池塘が光る景観は、まさに「カムイミンタラ」、神々の遊ぶ庭にふさわしい。これらは、大規模な火山活動によって噴出した堆積物が厚く積もった火碎流台地である。



ナキウサギ

高山にすむユニークな動物

大雪山の高山帯には、日本ではここだけか、ごく限られた地域でしか見られない動物が生息する。ナキウサギはその代表的なもので、大雪山系、日高山脈、北見山地と夕張山系の、寒冷な岩の多い環境に生息する。また、ウスバキチョウ、アサヒヒヨウモンなども、日本では大雪山にしか生息しない。これらはいずれも同じ種かごく近縁の種がアジア北部やアラスカなど北極圏の周辺に生息する。北海道が寒冷だった時代には、今より広い範囲に生息していたものが、氷河期が終わってからの温暖化によって高山など寒冷な地域だけに残った、遺存種と呼ばれる動物たちである。



高山帯の鳥

大雪山の高山帯を特徴づける鳥は、ギンザンマシコである。ギンザンマシコは亜寒帯針葉樹林に生息する鳥である。日本には不規則な冬鳥として主に北海道に渡来する。しかし、大雪山、日高山系、羅臼岳、利尻山など北海道の高山のハイマツ帯では夏季にも観察されており、大雪山では繁殖が確認されている。そのほか、ノゴマ、ホシガラス、ビンズイなどが高山帯で見られる。

多様な高山植物群落

広大な高山帯を持つ大雪山には、地形や気象条件に応じてさまざまな高山植物群落が発達している。大雪山の高山帯は標高約1,700～1,800m以上に成立する。ここに生育する植物は250種以上が知られ、ハイマツとお花畠が交錯する色彩豊かな景観を作っている。植物群落は環境別にいくつかのタイプに分けられる。

岩礫地のコマクサやタカネキスマレ、シロサマニヨモギなど。高木が生育できない風衝地のチシマツガザクラ、イワヒゲ、ミネズオウ等の矮性低木群落。尾根筋の積雪

の少ない場所のハイマツ群落。積雪が多く湿潤な場所のエゾノハクサンイチゲ、エゾキンバイソウ、エゾノツガザクラ、トカチフウロなど。雪田のアオノツガザクラ、チングルマ、エゾコザクラなど。湿原の池塘にはミツガシワやエゾホソイなどが見られる。希少種も多く、エゾオヤマノエンドウ、ジンヨウキスミレ、ホソバウルップソウなどの大雪山固有種や、リシリリンドウやナガバノモウセンゴケのような、分布のごく限られた種類も見られる。



- 1 チシマツガザクラ
- 2 ホソバウルップソウ
- 3 コマクサ
- 4 シロサマニヨモギ
- 5 エゾノツガザクラ